

Title	平成二十一年度 退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2010, 50, p. 153-167
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11892
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成二十一年度 退職教員略歴・主要業績

あまの 天野 ふみお 文雄 教授 芸術学講座（演劇学）

たまい 玉井 あきら 暲 教授 西洋文学・語学講座（英米文学）

ねぎし 根岸 かずみ 一美 教授 芸術学講座（音楽学）

はちや 蜂矢 まさと 真郷 教授 国文学・東洋文学講座（国語学）

天野 文雄 教授 略歴・主要業績

略 歴

- 昭和21年12月 東京都八王子市に生まれる。
- 昭和40年3月 都立武蔵高等学校卒業。
- 昭和44年3月 早稲田大学第一法学部卒業。
- 昭和44年4月 (有)労働文化社入社。編集部で企業の社内報の編集に携わる(昭和45年6月まで)。
- 昭和47年1月 明治学院大学経理部管財課に勤務する(昭和50年3月まで)。この間、文学部教授の尾形健氏が指導する白金宝生会で宝生流の謡に親しむ。
- 昭和47年4月 国学院大学文学部に学士入学。日本文学を専攻する(昭和50年3月、卒業。卒業論文は『宇治拾遺物語』論)。
- 昭和50年4月 国学院大学大学院文学研究科博士課程前期入学(昭和52年3月、同課程修了。修士論文は能作者宮増の作品研究)。同時に国学院久我山高専学校国語科専任講師となる(昭和58年3月まで)。
- 昭和52年4月 国学院大学大学院文学研究科博士課程後期入学(昭和55年、同課程単位取得退学)。
- 昭和58年4月 上田女子短期大学国文科専任講師となる(昭和60年12月、助教授。62年9月まで)。
- 昭和62年10月 大阪大学文学部芸能史・演劇学講座助教授となる。
- 平成5年4月 大阪文化祭賞審査委員となる。
- 平成8年1月 大阪大学文学部芸術学講座教授となる(平成7年の学部組織改編で大講座制が導入され、同年から所属講座は芸能史・演劇学講座から芸術学講座となる)。
- 平成8年3月 『翁猿楽研究』(平成7年、和泉書院)により法政大学から博士(文学)の学位を授与される。また、同書により第18回観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞する。
- 平成8年4月 文化庁芸術祭審査委員となる(平成10年3月まで)。
- 平成9年4月 大阪能楽養成会の講師となり、以後、平成10年までは年2回、11年からは年4回、20名ほどの若手能役者に能楽の歴史や作品についての講義をする。
- 平成11年4月 大学院重点化により、文学部教授から大学院文学研究科教授となる。
- 平成12年4月 文部科学省芸術選奨審査委員となる(平成13年3月まで)。また、財

	団法人大槻能楽堂理事となる。
平成14年4月	大阪大学評議員となる（平成16年3月まで）。
平成15年4月	文化庁芸術祭審査委員となる（平成18年3月まで）。
平成16年4月	大阪大学附属図書館副館長となり、これにともなって大阪大学教育・情報室員となる（いずれも平成18年3月まで）。また、大阪大学大学教育実践センター兼任教授となる（平成18年3月まで）。
平成18年4月	大阪大学文学研究科長、文学部長となる。また、財団法人懐徳堂記念会常任理事となる（いずれも平成20年3月まで）。また、文部科学省大学設置審議会専門委員（美術）となる（平成21年3月まで）。また、日本演劇学会会長となる。
平成21年4月	財団法人懐徳堂記念会評議員となり、同記念会創立百周年記念事業実行委員会会長となる。また、能楽学会代表となる。
平成21年4月	『世阿弥がいた場所－能大成期の能と能役者をめぐる環境－』（平成19年、ペリかん社）により第5回木村重信民族藝術学会賞を受賞する。また、同書により6月に第40回日本演劇学会河竹賞を受賞する。また、これにより平成21年度大阪大学教育・研究功績賞を受賞する。
平成21年4月	文化庁文化財審議会専門委員、文化庁芸術祭審査委員となる。また、財団法人国際高等研究所企画委員となる。
平成22年3月	大阪大学大学院文学研究科を定年退職する。

研究業績（著書のみ）

- 1、『岩波講座能・狂言 I 〔能楽の歴史〕』（昭和62年、岩波書店。表章氏との共著で、全400頁のうち約3分の1を執筆）
- 2、『翁猿楽研究』（平成7年、和泉書院。B5判、486頁）
- 3、『能に憑かれた権力者－秀吉能楽愛好記』（平成9年、講談社選書メチエ。A5判、286頁）
- 4、『現代能楽講義－能と狂言の魅力と歴史についての10講－』（平成16年、大阪大学出版会〔新世紀レクチャー〕。A5判、341頁）
- 5、『世阿弥がいた場所－能大成期の能と能役者をめぐる環境－』（平成19年、ペリかん社。B5判、650頁）
- 6、『能苑逍遥（上）世阿弥を歩く』（平成21年、大阪大学出版会〔阪大リーブル〕。A5判、310頁）
- 7、『能苑逍遥（中）能という演劇を歩く』（平成21年、大阪大学出版会〔阪大リーブル〕。A5判、320頁）

- 8、『能苑逍遥（下）能の歴史を歩く』（平成22年、大阪大学出版会〔阪大リーブル〕。A5判、330頁）

玉井 璋 教授 略歴・主要業績

1946年（昭和21年）8月30日 和歌山県日高郡日高町小中に生まれる

略 歴

- | | |
|-----------------|--|
| 1965年（昭和40年）3月 | 和歌山県立日高高校卒業 |
| 1965年（昭和40年）4月 | 大阪大学文学部入学 |
| 1969年（昭和44年）3月 | 大阪大学文学部（文学科英文学専攻）卒業 |
| 1969年（昭和44年）4月 | 大阪大学大学院文学研究科修士課程（英文学専攻）入学
同課程修了 |
| 1971年（昭和46年）3月 | 同課程修了 |
| 1971年（昭和46年）4月 | 大阪大学文学部助手（英文学講座） |
| 1974年（昭和49年）6月 | 大阪府立大学教養部助手（英語教室） |
| 1978年（昭和53年）4月 | 和歌山大学経済学部講師（英語・西洋文学担当） |
| 1979年（昭和54年）6月 | 同助教授 |
| 1980年（昭和55年）4月 | 和歌山大学大学院経済学研究科（修士課程）担当 |
| 1983年（昭和58年）4月 | 大阪大学文学部助教授（英文学講座）
大阪大学大学院文学研究科博士課程（前期・後期）担当 |
| 1985年（昭和60年）9月 | 連合王国オックスフォード大学リナカー学寮に留学
（～1986年11月） |
| 1993年（平成5年）9月 | 連合王国オックスフォード大学リナカー学寮に留学
（文部省在外研究（短期）により、～10月） |
| 1999年（平成11年）1月 | 大阪大学文学部教授（英文学講座） |
| 1999年（平成11年）4月 | 大阪大学大学院文学研究科教授（英米文学専門分野） |
| 2000年（平成12年）4月 | 博士（文学）（大阪大学）の学位を授与される |
| 2001年（平成13年）6月 | 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員
（～2003年6月） |
| 2003年（平成15年）6月 | 大学評価・学位授与機構大学評価委員会評価員
（～2005年6月） |
| 2006年（平成18年）4月 | 大阪大学教育・情報室室員（～2008年3月）
大阪大学附属図書館副館長（～2007年3月） |
| 2007年（平成19年）10月 | 文学研究科文化動態論専攻（文学環境論コース）
教授と兼任 |
| 2008年（平成20年）4月 | 文学研究科副研究科長（～2010年3月） |

2010年（平成22年）3月 大阪大学定年（予定）

学会関係役員

日本英文学会 理事（2001年4月～2007年3月、2009年4月～現在に至る）

評議員（2001年4月～2007年3月）

機関誌『英文学研究』編集委員（1993年4月～1997年3月）

機関誌『英文学研究』編集顧問（2004年4月～現在に至る）

日本英文学会関西支部 支部長（2004年4月～現在に至る）

日本ハーディ協会 会長（2008年11月～現在に至る）

理事（1997年4月～現在に至る）

日本ワイルド協会 会長（2003年4月～2007年3月）

副会長（1997年12月～2000年11月）

理事（1997年12月～現在に至る）

大阪大学英文学会 会長（2003年11月～2009年11月）

日本ブロンテ協会 理事（2004年4月～現在に至る）

日本ヴィクトリア朝文化研究学会 理事（2001年11月～現在に至る）

テキスト研究学会 副会長（関西支部）（2001年8月～現在に至る）

日本ジョージ・エリオット協会 理事（1997年11月～現在に至る）

日本ペイター協会 理事（1991年10月～現在に至る）

日本英文学会中国四国支部英文学会 機関誌『中国四国英文学研究』編集委員
（2003年4月～2007年3月）

受賞

1969年（昭和44年）大阪大学楠本賞

2006年（平成18年）大阪大学共通教育賞

2008年（平成20年）大阪大学共通教育賞（Paul Harvey・大森文子両氏と共同受賞）

主要業績

【著書】

『教養のためのイギリスの文学』（共著）、東海大学出版会、1985（S60）年3月．

『オスカー・ワイルド事典——イギリス世紀末大百科』（共編著）、北星堂、1997年（H9）
3月．

『トマス・ハーディと世紀末』（共著）、英宝社、1999年（H11）3月．

- 『批評の現在——哲学・文学・演劇・音楽・美術』〔懷徳堂ライブラリー2〕(共著)、和泉書院、1999年(H11)10月。
- 『イギリス世紀末文学におけるテキストと言語——ペイターとワイルド』(単著)、海川企画出版部、1999年(H11)11月。
- Regency Dandyism and the Fashionable Novel: Texts and Studies, Part I-III*: 監修と編集、全22巻(共編著)、本の友社、2002年(H14)12月; 2003年(H15)12月。
- 『病いと身体 of 英米文学』〔阪大英文学会叢書1〕(共編著)、英宝社、2004年(H16)5月。
- New Woman Fiction——Gender Representation at the Fin-de-Siecle, Part I-II*: 監修・編集、全9巻(共編著)、アティーナ・プレス、2005年(H17)11月; 2006年(H18)7月。
- 『<異界>を創造する——英米文学におけるジャンルの変奏』〔阪大英文学会叢書3〕(共編著)、英宝社、2006年(H18)11月。
- 『批評理論を読む、テキストを読む——文学研究方法論への挑戦』(編著)、大阪大学文学研究科英米文学研究室、2007年(H19)3月。
- 『トマス・ハーディ全貌——日本ハーディ協会創立50周年記念論集』(共編著)、音羽書房鶴見書店、2007(H19)年10月。
- Oscar Wilde: The Woman's World, November 1887——October 1889*: 監修・編集、全2巻(共編著)、アティーナ・プレス、2008年(H20)1月。

【論文】(著書に未収録のものから)

- 「Arthur Symons と Decadence」、『村上至孝教授退官記念論文集』、英宝社、1974年(S49)4月、pp. 282-96.
- 「オスカー・ワイルド『理想の夫』の構成」、『英米文学——研究と鑑賞』(大阪府立大学英米文学研究会)、第23号、1976年(S51)6月、pp. 44-78.
- 「*The Well-Beloved* における 'ending'」、『成田義光教授還暦祝賀記念論文集』、英宝社、1992(H4)年7月、pp. 69-83.
- 「近代性と言葉——吉田健一のペイター論」、『藤井治彦教授退官記念論文集』、英宝社、2000年(H12)2月、pp. 513-24.
- 「アーノルドの批評」、『英語・英米文学のエートスとパトス——杉本龍太郎教授古稀記念論文集』、大阪教育図書、2000年(H12)3月、pp. 399-407.
- 「ワイルドにおける文学の再生——無数の生と遺伝」、『英語青年』、研究社、2001年2月号、2001年(H13)2月、pp. 17-19.

- 「トマス・ハーディを読むJ・ヒリス・ミラー」、『英語青年』, 研究社、2001年10月号、2001年(H13)10月、pp. 14-16, 48.
- 「J・ヒリス・ミラーの批評——テキストの「異種混交性」をめぐって」、『ドラマティック・アメリカ』、英宝社、2002年(H14)10月、pp. 3-21.
- 「『まじめが肝心』とファルス——ワイルド論」、『岩波講座文学』、第5巻『演劇とパフォーマンス』、岩波書店、2004年(H16)2月、pp. 227-47.
- 「ファッションブル・ノヴェルの世界」、『Regency Dandyism and the Fashionable Novel——別冊解説』、本の友社、2004年(H16)年9月、pp. 12-22.
- 「『ヴェレット』」、『ブロンテ姉妹を読む人のために』、世界思想社、2005年(H17)2月、pp. 211-18.
- 「J・ヒリス・ミラーの批評再考——ハーディの詩「引き裂かれた手紙」をめぐって」、『テキストの地平——森晴秀教授古稀記念論文集』、英宝社、2005年(H17)年3月、pp. 183-97.
- 「芸術家たちの結社——ラファエロ前派」、『結社のイギリス史——クラブから帝国まで』、山川出版社、2005年(H17)年8月、pp. 163-76.
- 「美の遺伝——ラファディオ・ハーンの日本文化論」、『英語・英文学の視座——上山泰教授喜寿記念論文集』、大阪教育図書、2005年(H17)11月、pp. 239-49.
- 「<新しい女>小説の諸相——小説・演劇・絵画」、『New Woman Fiction—Gender Representation at the Fin-de-Siecle: 別冊解説』、アティーナ・プレス、2006年(H18)7月、pp. 1-11.
- 「ワイルド編集による *The Woman's World* の復刻に当たって」、『*The Woman's World*, November 1887-October 1889: 別冊解説』、アティーナ・プレス、2008年(H20)1月、pp. 1-6.
- 「批評理論と英文学教育——英語を教えること、英文学を教えること」、『日本英文学会第80回大会 Proceedings』(日本英文学会編)、2008年(H20)9月、pp. 203-05.
- 「シャーロット・ブロンテ小説の可能性——『シャーリー』の場合」、『ブロンテ・スタディーズ』(日本ブロンテ協会編)、第4巻第6号、2008年(H20)10月、pp. 1-18.
- 「文学・芸術は<エコ>にどのように貢献できるのか?」、『文学・芸術は何のためにあるのか?——未来を拓く人文・社会科学シリーズ第17冊』、東信堂、2009年(H21)3月、pp. 105-13.
- 「環境と文学——<環境文学(Eco-Literature)>の可能性とその社会的効用」、『芸術とコミュニケーションに関する実践的研究——日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト<文学・芸術の社会的媒介機能>研究報告書』、大阪大学文学研究科刊

行、2009年（H21）3月、pp. 72-75.

「批評家としてのオスカー・ワイルド」、『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』、世界思想社、2009年（H21）年5月、pp. 164-73.

【翻訳】

J・ヒリス・ミラー『小説と反復——七つのイギリス小説』（共訳）、英宝社、1991年（H3）11月.

メリッサ・ノックス『オスカー・ワイルド——長くて、美しい自殺』（単独訳）、青土社、2001年（H13）3月.

ウォルター・ペイター『ウォルター・ペイター全集』第1巻（共訳）、筑摩書房、2002年（H14）2月.

ジョージ・ヒューズ『ハーンの轍の中で——ラフカディオ・ハーン、外国人教師、英文学教育』（共訳）、研究社、2002年（H14）10月.

ロバート・アッカーマン『評伝J・G・フレイザー——その生涯と業績』（監訳）、法蔵館、2009年（H21）2月.

根岸一美教授 略歴・主要業績

1946年10月13日 埼玉県鴻巣町（現：鴻巣市）に生まれる

学 歴

1965年3月 埼玉県立浦和高等学校卒業
 1965年4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
 1970年3月 同文学部卒業（美学芸術学専攻）
 1970年4月 東京大学大学院人文科学研究科美学芸術学専門課程修士課程入学
 1973年3月 同修了
 1973年4月 同博士課程進学
 1975年3月 同中退（1974年4月より1975年3月まで東京芸術大学音楽学部研究生を併歴）

職 歴

1975年4月 大阪音楽大学音楽学部専任講師
 1981年3月 同退職
 1981年4月 大阪教育大学教育学部助教授（1982年8月より1984年7月までアレクサンダー・フォン・フンボルト財団給費研究員としてドイツ連邦共和国に出張滞在。ハイデルベルク大学音楽学研究室に所属）
 1992年4月 同教授
 1998年4月 大阪大学文学部教授
 1999年4月 同大学院文学研究科教授
 2010年3月 定年により同上退職

主要業績

1) 著書・論文

- ・ Anton Bruckner und seine 6. Symphonie, in: *The Memoirs of Osaka Kyoiku University*, Ser. I, Vol. 35, No. 1, pp. 55-137, 1986年9月
- ・ 『ブルックナー／マーラー事典』（東京書籍、渡辺裕氏との共同監修、共著）、1993年10月
- ・ Bruckner-Rezeption im asiatischen Raum - am Beispiel Japans, in: *Bruckner-Symposium 1991 Bruckner-Rezeption, Bericht*, Anton Bruckner Institut Linz/Linzer Veranstaltungsgesellschaft mbH, S.201-210, 1994年9月
- ・ 「宝塚交響楽協会の活動に関する未整理資料について（上）」：『館報 池田文庫』第7

- 号、財団法人阪急学園池田文庫、6-8頁、1995年4月
- ・「宝塚交響楽協会の活動に関する未整理資料について（下）」：『館報 池田文庫』第8号、財団法人阪急学園池田文庫、9-11頁、1995年10月
 - ・Artikel <Asien>, in: *Anton Bruckner Ein Handbuch*, hrsg. von Uwe Harten u.a., Residenz Verlag, Salzburg und Wien, S.353、1996年12月
 - ・「宝塚交響楽団の歴史を再び調べ始めて — 昭和十年（一九三五）を中心に」：『館報池田文庫』第14号、財団法人阪急学園池田文庫、3-5頁、1999年4月
 - ・『宝塚交響楽団定期演奏会記録 — 1926年（大正15）9月18日～1942年（昭和17）3月14日』、大阪大学研究費による出版、全12頁、1999年8月
 - ・辞典項目「ブルックナー」、同「ラスカ」：『新編 音楽中辞典』（音楽之友社）、604-605頁、729頁、2002年3月
 - ・『ヨーゼフ・ラスカと宝塚交響楽団』（平成12年度～平成14年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）研究成果報告書、声楽作品CD添付）、全80頁、2003年5月
 - ・『音楽学を学ぶ人のために』（世界思想社、三浦信一郎氏との共同監修。II-4「音楽解釈学」および「あとがき」を執筆）、2004年1月
 - ・『ヨーゼフ・ラスカ《父の愛》— 20世紀初頭におけるバレエ・パントマイム芸術の再構築に向けて』（編著：大阪大学21世紀COEプログラム インターフェイスの人文学 映像人文学 2003年度報告書、《父の愛》上演記録DVD添付）、2004年3月
 - ・『ブルックナー』（音楽之友社）、全256頁、2006年6月
 - ・Die im Kobe College hinterlassenen Musiknoten von Joseph Laska :『阪大音楽学報第5号』（大阪大学文学部・大学院文学研究科音楽学研究室紀要）、82-92頁、2007年7月

2) 訳書等

- ・ジョン・ホートン『ブラームス 管弦楽曲』（日音楽譜出版社）、1982年6月
- ・ルートヴィヒ・フィンシャー「絶対音楽と標題音楽との間に」ドイツ・ロマン派交響曲の解釈について」戸沢義夫・庄野進編『音楽美学 — 新しいモデルを求めて—』（勁草書房）、31-54頁、1987年1月
- ・ヴァルター・ザルメン／ガブリエーレ・ザルメン『音楽家 409人の肖像画 第3巻18世紀』（音楽之友社）、1988年8月
- ・ヴォルフガング・ザイフェルト『ギンター・ヴァント』（音楽之友社）、2002年6月
- ・シュレーダー＝シュローム（ファーストネームは不明）「なみ子（Namiko）」（オペレッタ台本および歌詞）、中之島国際音楽祭2008における「貴志康一生誕100年記念 オペレッタ《なみ子》世界初演」（於大阪市中央公会堂）使用台本、2008年11月

蜂矢 真郷 教授 略歴・主要業績

1946年8月26日 岐阜県（現、本巣市）に生まれる。

学 歴

1965年4月 京都大学文学部入学
 1969年3月 同 卒業（文学科国語学国文学専攻）
 1971年4月 同志社大学大学院文学研究科修士課程入学（国文学専攻）
 1974年3月 同 修了（同）〔文学修士〕
 1996年12月 博士（文学）〔大阪大学〕

職 歴

1975年4月 親和女子大学（現、神戸親和女子大学）専任講師
 1979年4月 同 助教授
 1982年4月 帝塚山学院大学（文学部）助教授
 1987年4月 奈良女子大学文学部助教授
 1991年4月 大阪大学文学部助教授
 1996年3月 同 文学部教授
 1999年4月 同 大学院文学研究科教授

受 賞

1998年11月 第17回新村出賞

学会等役員

国語学会（→日本語学会、2004年4月より学会名改称）
 編集委員・大会運営委員（1994年7月～1998年5月）
 評議員（2000年4月～、現在に至る）
 常任査読委員（2004年5月～2007年5月）
 訓点語学会
 委員（2003年11月～、現在に至る）
 会計監査委員（2006年度）
 萬葉学会
 編輯委員（1979年12月～、現在に至る）
 編輯委員長（1988年4月～1990年7月）

代表（2009年4月～、現在に至る）

国語語彙史研究会

委員（1989年4月～2001年3月）

編集主任（1998年12月～2002年3月、2006年4月～2007年3月）

幹事・代表幹事（2001年4月～、現在に至る）

国語文字史研究会

委員（2002年4月～2008年3月）

編集主任（2005年9月～2009年5月）

代表（2008年4月～、現在に至る）

主要業績

〔著書〕

- 1、国語重複語の語構成論的研究 [1998・4 塙書房]
- 2、国語派生語の語構成論的研究 [2010・3 同]
- 3、古代語の謎を解く [2010・3 大阪大学出版会]

〔論文〕（大阪大学着任以前のもの39篇を除く）

- 1、カス型動詞の構成（『吉井巖先生古稀記念論集日本古典の眺望』 [1991・5 桜楓社]）
- 2、ヤカ型語幹の構成（「ことばとことのは」 8 [1991・12]）
- 3、造語の変遷と古語・廃語（「日本語学」 11-5 [1992・5]）
- 4、多少と大小（吉井巖氏編『記紀萬葉論叢』 [1992・5 塙書房]）
- 5、今昔物語集における動詞の重複（『国語語彙史の研究』 12 [1992・7 和泉書院]）
- 6、ク型動詞とグ型動詞（上）（「ことばとことのは」 9 [1992・11]）
- 7、「アハレ」の意味の変遷（「言語」 22-2 [1993・2]）
- 8、ク型動詞とグ型動詞（下）（「ことばとことのは」 10 [1993・12]）
- 9、～キと～ギ（「萬葉」 150 [1994・5]）
- 10、カ・ク・グ（『国語語彙史の研究』 14 [1994・8 和泉書院]）
- 11、語構成と形状言（「語文」（大阪大学） 65 [1996・2]）
- 12、複合形状言・派生形状言（『国語語彙史の研究』 16 [1996・10 和泉書院]）
- 13、助数詞被覆形の用法 ——名詞被覆形とク活用形容詞語幹とから——（『日本語文法体系と方法』 [1997・10 ひつじ書房]）
- 14、形容詞語幹の一用法 ——～+形容詞語幹の構成の複合形状言について——（佐藤武義氏編『萬葉集の世界とその展開』 [1998・4 白帝社]）
- 15、カ型語幹の構成（『国語語彙史の研究』 17 [1998・10 和泉書院]）

- 16、ヤカ型語幹とラカ型語幹 (『国語論究』 7 中古語の研究 [1998・12 明治書院])
- 17、ヤク (ヤゲ)・ラク (ラグ) (『国語語彙史の研究』 18 [1999・3 和泉書院])
- 18、ラカ型語幹の構成 (『森重先生ことばとことのは』 [1999・3 同])
- 19、形容詞語幹の用法 (『古稀記念文集国語国文学藻』 [1999・12 同])
- 20、カ・ヤカ・ラカ型語幹の語基 (『国語語彙史の研究』 19 [2000・3 同])
- 21、ラ接尾形とり接尾形 (西宮一民氏編『上代語と表記』 [2000・10 おうふう])
- 22、形容詞の形容動詞化と形容動詞の形容詞化 (『語文』^(大阪大学) 75・76 [2001・2])
- 23、一次的ケシ型と二次的ケシ型 (『国語語彙史の研究』 20 [2001・3 和泉書院])
- 24、古典語の複合語 (『日本語学』 20-9 [2001・8])
- 25、一音節語幹の形容詞 (『萬葉』 178 [2001・10])
- 26、形容詞ヒキシ・オホキイ等とその周辺 (玉村文郎氏編『日本語学と言語学』 [2002・1 明治書院])
- 27、ク活用形容詞語幹を後項に持つ形容動詞語幹 (『国語語彙史の研究』 21 [2002・3 和泉書院])
- 28、語幹を共通にする形容詞と形容動詞 (『国語語彙史の研究』 22 [2003・3 同])
- 29、動詞表記「敷」と形容詞語尾表記「敷」との間 ——シク活用形容詞フトシ [太] の成立について—— (『国語文字史の研究』 7 [2003・11 同])
- 30、語基を共通にする形容詞と形容動詞 (『国語語彙史の研究』 23 [2004・3 同])
- 31、上代の清濁と語彙 ——オホ～・オボ～(イフ～・イブ～)を中心に—— (『美夫君志』 68 [2004・3])
- 32、ウマシクニソとウマシキクニソ ——ウマシ [シク活用] の問題から—— (『萬葉』 190 [2004・9])
- 33、一九六五～一九七五年度頃の略字 (『国語文字史の研究』 8 [2005・3 和泉書院])
- 34、『長塚節歌集』の形容詞 (『国語語彙史の研究』 24 [2005・3 同])
- 35、形容詞スガシ (イ) [清] 考 (『大阪大学大学院文学研究科紀要』 45 [2005・3])
- 36、重複形容詞の周辺 (『国語語彙史の研究』 25 [2006・3 和泉書院])
- 37、促音・撥音の現代ローマ字表記 (『国語文字史の研究』 9 [2006・4 同])
- 38、タテ [縦]・ヨコ [横] とその周辺 (『語文』^(大阪大学) 86 [2006・6])
- 39、ト [利] をめぐる語群 (『親和国文』 41 [2006・12])
- 40、『日本唱歌集』の形容詞 (『国語語彙史の研究』 26 [2007・3 和泉書院])
- 41、上代特殊仮名遣に関わる語彙 (『萬葉』 198 [2007・6])
- 42、ヲ [小] とコ [小] (『國學院雑誌』 108-11 [2007・11])
- 43、ト [門] とト [戸] とト [外] (『京都語文』 14 [2007・11])

- 44、現代仮名遣いの長音表記（『国語文字史の研究』10 [2007・12 和泉書院]）
- 45、語の変容と類推 ——語形成における変形について——（『国語語彙史の研究』27 [2008・3 同]）
- 46、テ [手] とその周辺（「待兼山論叢 文学篇」42 [2008・12]）
- 47、『新編左千夫歌集』の形容詞（『国語語彙史の研究』28 [2009・3 和泉書院]）
- 48、和名類聚抄地名の「部」（『国語文字史の研究』11 [2009・5 同]）
- 49、チ [路] とミチ [道]（『萬葉集研究』30 [2009・9 塙書房]）
- 50、メ [目] とその周辺（「親和国文」44 [2009・12]）
- 51、二音節語基と形容詞語幹（『国語語彙史の研究』29 [2010・3 和泉書院]）
- 〔索引〕
- 1、上宮聖徳法王帝説仮名語彙索引（「訓点語と訓点資料」68 [1982・5]）
- 2～11、『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿（一）～（十）（「萬葉」112 [1983・1]、
「同」113 [1983・3]、「同」116 [1983・12]、「同」119 [1984・10]、「同」126 [1987・7]、
「同」128 [1988・2]、「同」154 [1995・7]、「同」155 [1995・11]、「同」167 [1998・11]、
「同」168 [1999・3]）